

スピーチ力磨こう



野田佳彦首相は、演説（スピーチ）上手として知られています。民主党代表選挙に勝って首相になれたのも、演説が上手だったことが理由の一つだといわれています。優れたスピーチには、人の心を動かす力があります。どうしたら上達できるか、元小学校校長で、国語教育を研究している玉川大学教職大学院准教授の井出一雄先生に写真に聞きました。

進学、就職でも
小学生も、授業や始業前の朝の会でスピーチをする機会があることでしょう。「他者とかかわり、豊かな人間関係をつくっていくためにも、自分の考えをしっ

かり話すことは大事です」と井出先生。
進学や就職での面接試験、あるいは社会人になってからの会議などで、自分の意見を言うことから逃れることはできません。わかりやすく、説得力のある話し方は、大人になっても必要なのです。

準備を徹底

例（理由）をあげるので。「男子と女子が仲良しです」「授業中は活発に意見が出ます」「休み時間にはみんなそろって遊びます」など。そうすることで、聞く人にわかってもらえます。「事例が自分の体験だけでなく、本からの引用やだれから聞いたこと、自分で調査したこともあると、さらに説得力が高まります」

井出先生は上手なスピーチをするコツとして、話し順番を考える、スピーチメモを作る、本番では豊かな表情や身ぶり手ぶりでうたえる、といった流れをあげます。イラスト参照。またプレゼンテーション（自分の計画や案を説明すること）では、どんな資料をいつ出すかを考えることが大事だといえます。

そのジョブズさんは、プレゼンテーション前、徹底して準備に時間をかけるといわれています。
「ステイブ・ジョブズ 驚異のプレゼン」(日経BP社)には、新ソフトの五分間の表演のために、開発チームは数百時間かけて準備し、ジョブズさん自身は丸二日かけて練習したことが書かれています。

小学生がそこまでするのは難しいでしょう。井出先生は、スピーチ本番の前に家族相手に練習することをすすめます。
「複数の人の前に立って話そうとすると、どうしても緊張してしまいます。表情もかたくなる。事前練習で、こうした緊張感に慣れておきましょう」

わかりやすく、人の心を動かす

話す順番を考える

たとえば
自分の考え、言いたいこと
↓
なぜそう思うか
↓
結論、まとめ

「なぜそう思うか」は説得力のある事例を用意する
「このクラスは明るい」
なぜ？
・男女なかよし
・授業で意見が活発
……など

スピーチメモ作りリハーサル

スピーチ原稿を作った後に箇条書きなどでメモを作成
家族の前で練習

表情や身ぶり手ぶりで聞き手の心をとらえる

わたしは…
そう思いませんか？

「わたしたちのクラスはとても明るいです」といった内容のスピーチをすると思います。「明るいクラス」というのが、考えにあたります。ただこれだけでは、聞いた人が納得することは難しいでしょう。そこで事

どうしたらスピーチがうまくなるのでしょうか。井出先生は「自分の考えや意見を伝えるためには、わかりやすい事例をあげることが一番重要です。考えと事例はセットなのです」とアドバイスします。

考えと事例をセットに

「5分」に2日
上手なスピーチやプレゼンテーションには、事前の準備や練習が欠かせません。アメリカのコンピューターメーカー、アップルの

「へこたれない」
数をこなすことも大切。失敗しても、へこたれることはありません。
野田首相も薬田台小（千葉県船橋市）の六年生だったとき、児童会長に立候補したものの、全校児童を前にしたスピーチでしどろもどろになってしまい、失敗に終わったそうです。大人になってから、一九八六年から二〇一〇年まで、千葉県内の駅前で毎朝のように演説を続けて腕をみがきました。

井出先生は「みなさんには、うれしいことや楽しいことなど、人に話したくなるような体験をたくさんしてほしい。それがスピーチ上達の基礎になると思います。先生や親には、子どものお話をささげることなく、最後まで聞いてもらいたいですね」と話します。

井出一雄先生の話をもとにしたイラスト・大塚洋一郎